

# イタリアにおけるモダンとアヴァンギャルドの相克Ⅱ

## 第1部 〈未来派総合演劇宣言〉を読む

## 第2部 特集「未来派の宣言文を読む」を読む

2022年3月4日（金）14:00~17:00（会場参加は登壇者のみ）

立命館大学衣笠キャンパス（京都）平井嘉一郎記念図書館1階カンファレンスルーム  
一般によるオンライン参加可

オンライン参加を希望する方は、  
代表・土肥秀行（hidedoi@fc.ritsumei.ac.jp）までご連絡ください。

前衛においては理論が実作に先行し、実作には必ずしも理論が反映されない、といった見方が一般に支配的ななか、その理論が詳らかにされる「宣言文」（未来派を例にとる）にあえて立ち返ってみる。それは前衛における言葉の優位の追認、かえって自律する作品の確認ともなるだろう。それとも、第三の道として、前衛の前衛たる「新しさ」を強調する言葉と作品の二元論からの脱却も示せるだろう。そもそも前衛の「新しさ」を問い直すことは、前衛を、モダニティの文脈上で歴史化する新たな可能性につながるだろう。

～研究テーマ「イタリアにおけるモダンとアヴァンギャルドの相克」とは～

他国に先駆け前衛芸術運動が展開されたイタリアでは、新奇性と前時代性の清算がつかないまま、前衛とモダニティの錯綜した関係が1910年代から1920年代までに発生する。イタリアという特定の文脈における歴史的検証を通じ、他の類例とも対照しうる前衛観あるいはイタリア版モダニズムを提示する試みである。

2021年3月に開かれた研究会では、文学・美術・写真・映像・舞踊の各ジャンルにおける未来派宣言文を「読む」発表がなされた。当事者の主張と実作との往還の成果は、『立命館言語文化研究』に掲載されている。

二回目となる今回の研究会では、未来派におけるジャンル横断性のエスキスとなった演劇の宣言文を読む菊池正和氏の講演と、第一回目の振り返りを、紀要の特集の書籍化を検討しつつ、行う。

主催 国際言語文化研究所（重点研究プロジェクト「世界／日本文学の展開とモダニティ」）

### プログラム

14:00-14:05 趣旨説明 土肥秀行（立命館大学）

14:05-14:55 第1部 講演 菊池正和（大阪大学）

〈未来派総合演劇宣言〉を読む—戯曲における実践の検証を通して—

14:55-15:10 コメント 原基晶（東海大学）

15:10-15:30 質疑

15:30-15:45 休憩

15:45-17:00 第2部 ラウンドテーブル「未来派の宣言文を読む」を読む

横田さやか（日本学術振興会）、太田岳人（千葉大学）、角田かるあ（慶應義塾大学博士課程）、菊池正和、原基晶、土肥秀行

紀要『立命館言語文化研究』特集《未来派の宣言文を読む》

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/iilcs/publications/papers/article.html/?id=14>

